

札幌市環境プラザ運営協議会 平成28年度第1回実施概要

1 日 時 平成28年5月20日(金) 13:30~15:30

2 会 場 札幌エルプラザ公共4施設2階 会議室1・2

3 出席者

(1) 委 員：伊井委員、鎌田委員、河西委員、高橋委員、山本委員、早坂委員、寺田委員

(2) 札幌市：環境局環境計画課 環境教育担当係長、計画係担当

(3) 事務局：(公財)さっぽろ青少年女性活動協会 市民参画課長、環境係長、指導員、サポートスタッフ

4 会議次第

(1) 開 会

(2) 札幌市環境局 あいさつ

(3) 委員自己紹介

(4) 座長選出

(5) 議事 平成27年度報告 平成28年度計画

(6) 札幌エルプラザ公共4施設館長 あいさつ

(7) 閉会

5 議事概要

(1) 平成27年度報告 事務局より 平成27年度事業の報告を行った。

ア 環境情報の収集・提供業務

イ 環境保全活動、交流の支援と推進業務

Q1 環境活動団体の支援について、協力事業にあたるものと、協力事業にあたらぬものはどのように区別しているか。団体の人たちのためになるアドバイスや助言という関わりまで行って、初めて協力することになるのでは？

A 団体支援については、次の3つがある。事業をつくるところから関わる共催事業、広報や場所の予約などスポットで協力する協力事業、事業チラシを配架すること。また、通常の枠組みにない相談もあり団体の希望にどのように寄り添っていくかが今後の課題である。

Q2 来館者が増えている推移や環境団体への支援の推移がわかる資料があると、環境プラザの中間支援施設としての役割がより明確にわかれると思う。

A 次回以降に資料で提示することとする。

Q3 協力事業で実施しているパネル展など、環境プラザでできることや団体の相談に乗ってもらえることを団体の皆さんは意外に知らないのではないか。相談できることなどをわかりやすく宣伝するとよいのでは？

A 環境プラザに登録している団体とのパイプを今後太くしていくこと、環境プラザの利用をわかりやすくしていくことが今後の課題と認識している。

Q 4 「こどもエコクラブ交流会」について、定員設定が少ないように思うが、課題としてはどのようなことがあげられるか？

A 「こどもエコクラブ交流会」は団体に案内して、団体からメンバーにお知らせする連絡体制をとっているため、日程調整が難しい。年度当初にスケジュールをお知らせするなど工夫していきたい。

Q 5 フェイスブックページの情報発信の対象はどのくらいの年齢層で、どのような属性を持った人たちに発信しているのか？

A 環境に関する活動をしている人との接点をつくり、その人たちをとおして周辺に拡散することを検討している。環境に関心のない方々に、どうやってアプローチしていくかが大きな課題である。

ウ 環境教育・学習の推進業務

エ 普及啓発企画業務

Q 6 学校への支援については、環境教育リーダーを養成してその人たちが学校に行く仕組みを展開していると思うが、あえて環境プラザが小学校に直接出向く意味は何か？

A 環境プラザは、環境教育リーダー派遣の窓口として、団体からの依頼を調整してリーダーに依頼する橋渡しの役割を担っている。実際に環境教育の現場の現状を職員が理解する上でも、学校との接点を持ち続けることに意味があると、前年度の運営協議会で議論している。

Q 7 学校への出前事業は、次年度以降どの程度の規模で実施すると職員の資質向上につながるか、また相談業務にいかしていくことにつながるとイメージしているか？

Q 8 教師対象研修のビオトープを使った学習づくりと学校への出前事業はリンクしていると思うが、どのようにとらえているか？

A 学校への出前事業は年1回程度を継続していくことを考えている。教師向け研修は今期の指定管理者制度から実施しているが、初回の参加者とのつながりから、出前事業の実施校が決まった経緯がある。

○ 事業と事業が有機的に関連すると、さらに深みが増してくる印象を持った。

○ 釧路でも教師向け研修を実施しているが、学校で実施する上で何がハードルかを探り、その部分を支援することで、モデル事業として実施する後押しをしている。

○ 自由研究応援講座は、学校への学習支援として学校の中に入るだけではなく、外部からのアプローチとして有効である。子どもたちにさまざまな体験を提供するために、団体とつながりを増やすことは今後も期待している。

Q 9 「親子野あそびようちえん」はすべて平日開催になっており、参加できる親子が限られてしまうと思うが、理由はあるか？多様な家族があることを考えると、何かきっかけがあれば普段自然に触れられない環境にある親子にもっと広がっていくのでは？

A 「親子野あそびようちえん」は、外遊びと環境プラザの展示コーナーでの活動がセットになっており、平日に環境プラザの展示コーナーを活用するという当初のねらいがあり、平日に設定している。父親と母親が参加する特別の日として、土・日の開催についても職員の中でアイデアが出ている。

Q10 全体をとおして、子どもを対象にした事業に偏っている気がする。子どもから大人までの年齢層にしっかり手を伸ばし、興味を持ってもらうことによって、周りの人に伝わっていき、それが環境に配慮し興味を持つ人たちが集まった社会の創造につながるのではないかと思う。もう少し、大人や大学生、高校生を対象にした事業があってもよいと感じた。

A 札幌市環境教育基本方針の中で、重点として関わる対象を子どもとしており、子どもをとおして家族に広がることをねらっている。ただ、さまざまな方との接点をつくっていくことは非常に大切だと認識している。親子事業でのつながりや、大人向け事業については今後の課題である。

Q11 出前事業「環境プラザがやってきた」で児童会館が比較的多いと思う。児童会館の取り組みや課題などの情報をつかみ、環境プラザを利用している団体とつなぐことで、団体も地域に根ざした形で活動を続けられ定着も図られると思う。活動協会の資源をより効果的に活用していただきたい。

A 児童会館では放課後子どもクラブの児童が増え、職員の手が足りない状況がある。その中でさまざまな体験を提供したいが、難しい状況がある。年度計画を作成するタイミングでの広報が効果的と考える。同じ団体が運営しているスケールメリットをいかした運営を大切にしていく。

Q12 環境団体が活用できる場所であるということがあまり知られていないように思う。設置場所の良さと今までのネットワーク、団体が持っているネットワークをいかして、さまざまな人が利用できるということを伝えていくことが非常に重要だと思う。石狩市で実施している科学の祭典は環境関連団体だけの参加ではなく、元教員の方たちが中心となり、市内の学校の部活やサークルなどと連携し開催している。自由研究応援講座の参加団体を拡大するなどして、環境をつくり対象を広げるとよい。

A 今後の運営の参考にする。

オ 札幌市環境プラザ運営協議会運営業務

カ その他の業務
施設利用状況

Q13 事業の評価について、参加人数以外ではどのような点を評価対象としているのか？

Q14 PDCA サイクルがどのように回っているか？

A 指定管理の仕様書にある環境プラザの「機能」を満たしていくことが、指標になると考える。PDCA サイクルについては、春の運営協議会で計画を明らかにし、秋の運営協議会で中間報告をし、その意見をもとに12月から1月に次年度の計画を作成している。また、指定管理評価シートの中で、自己評価と札幌市の評価を得て、ホームページに掲載している。

Q15 事業の中で効果が得られなかったため、実施を見直すものはあるか？

A 指定管理者制度の仕様書に掲載のあるものは確実に実施し、それ以外については検討する必要がある。現在の業務を実施する中で、今後も検討していきたい。

(2) 平成 28 年度計画 事務局より 平成 28 年度事業計画を説明した。

<委員からの意見として>

- 子育て世代は自然体験が少ない人が多く、若い父親母親とも自然にどう接していいかわからない人が多いので、子どもだけでなく親子を対象にすることが重要である。また、児童会館スタッフが研修で幼児向け事業に関わることで、児童会館でも自然体験を日常の遊びに活用できると思う。さらに、大学生や若い人たちに実践してもらえそうな活動が増えるとよい。
- 人材育成が一つのキーワードになっている。直接何かに取り組むよりも、波及効果を狙った人材育成がこれから強調していく事業であるという方向性が見えた。
- 評価基準を持つべきである。3～4年の計画をもって、一つひとつの事業を設計していくことで、今年度の効果や次年度の見通しが立ち、協議会の中でも議論がしやすい。環境プラザの職員で目指すべきものを作り、提案し続けなければ今の形からは変わらない。現場で感じることを示し根拠を提示した上で、機能を高めるためにこの事業に特化していくことがあってよい。
- もし事業を減らすなら、環境保全アドバイザーと環境教育リーダーの派遣を分けなくてもよいのではと思う。
- 次回の展開について、全体像を把握してご意見をいただく方が、今後の将来像が明確になっていくと思う。
- 環境プラザに求められている機能と、それに付随する事業群について、何年後にどこを目指し、今はこの段階なのでこういう連携をつくっていくと成果が生まれるというストーリーが見えると、理解しやすい。
- どういう効果を測定していくのか、それが効果的であるのか、場合によってはスリム化してストレスをおくところがあるのではないかということについて、次回の協議会で示してほしい。
- 札幌市環境局で実施している市民向け啓発事業について紹介させていただく。
「環境広場さっぽろ」は、昨年度は3万人ほどの市民が集まった本市の主要なイベントの一つである。そのほか、家庭での省エネ・節電の方法を「うちエコ診断士」に教えてもらう事業等を実施している。会議全体を通じて、「波及効果」がキーワードではないかと感じた。波及した後にどの程度の効果があったかのモニターは難しく、現状では人数だけの把握になっている。「誰から聞いてイベントに来たのか？」などを聞くことは、波及効果を知る上でも重要であり、アンケートなどの工夫も必要ではないかと考える。
- A ビジョンを描いてどのようなステップを踏むかは重要なことなので、次回に向けて資料を用意したい。

以上